

LINN LP-12 の再構成(10)

—総合試聴—

1. 始めに

LINN LP-12 の再構成後のアナログマジックによる測定と試聴が一段落したのを機会にオーディオ仲間にご参集いただき、MQA-CD や BPODCH の再生などとともにその成果を確認していただきました。

2. LINN LP-12 の再構成後の総合試聴方法

LINN LP-12 のアナログの試聴は、前報(5)と同様で、最終的なかたちは、LINN LP-12 の再構成(9)で述べたとおりです。



Garrad 401 のアナログの試聴は、アナログマジックの導入(2)と同様で、最終的なかたちは、アナログマジックの導入(8)で述べたとおりです。



MQA-CD の試聴は、一連の Brooklyn DAC+ の報告と同様です。

その他の再生も含めて、再生経路と変更点については、オーディオ資料室に収載した再生経路と変更点に記載しています。

その他、Mt.T2 氏が LHH-2000 と 100V→115V 昇圧電源トランスを持参されましたので、つぎの経路で再生しました。

LHH-2000→EX-Pro SV-1→DA-3000→MYTEK Brooklyn DAC+ 【SDIF 入力】



さらに、K 氏にアナログアキュライザー（仮称）試作品をご持参いただいたので、その試聴も行いました。

3. LINN LP-12 の再構成後の総合試聴経過

非常に盛りだくさんのプログラムでしたので、逐一の報告とせず、要約を述べていきます。

まずは、先に到着された Mt.T2 氏に LP-12 と Garrad 401 のオーディオ資料室に収載した再生経路と変更点に記載している改善点の効果を確認していただいたところ、概ね [LINN LP-12 の再構成\(5\)](#) で報告したようなことでした。

ついで遅れて到着された K 氏と S 氏にも、特にこれまで鳴らしにくいと感じられていた、大編成ものや合唱もの、あるいは、音色の異なる楽器が次々とリレー的に演奏される色彩感豊かなものなどを加えて、同様の確認をしていただき、Mt.T2 氏と同様のご感想をいただきました。特に、演奏会でオーケストラを聴かれる機会の多い S 氏には、大編成オーケストラの定位、各パートの分離と楽器の質感、オルガンのペダル領域やコントラバス、グランカッサなどの明瞭さなどが気にいただきました。一部、K 氏から細かい疑問点も出ましたが、試聴位置との関係や編成とマイクセッティングとの関係などを説明してご理解いただきました。一方、Garrad 401 の方は、改善過程にあるので、LP-12 を聴いてしまうと物足りないということでした。

LHH-2000 による CD 再生では、通電後時間がたたないとノイズが消えないという

ことでしたが、安定後は、さすがに Philips のプロ用機器であるだけに、Philips のメカと DAC チップの素性の良さがでていました。

アナログアキュライザーについては、次のような使用条件で試聴しました。

P&G フェーダー出口の 300B シングルアンプ送り出し側に装着

デジタル音源試聴

アナログ音源試聴

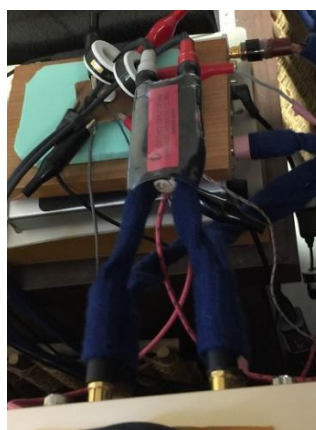
MySonic Stage 3010 トランスの LP-12 フォノケーブル入力側に装着

Beyer マイクトランスの Garrad 401 フォノケーブル入力側に装着

アナログ音源試聴



P&G フェーダー出口に装着



Stage 3010 トランス入力に装着

いずれについても大きな効果があり、リアル感と音楽の表現力が格段に向上し、音を忘れてしまい、音楽に没頭できるとの声もでました。一方、ある程度、録音やマスターリングで音を作っている音源では、効果が出にくいとかの声もありましたが、そういった操作の入りにくい、BPODCH や BS 音楽番組の録画など、ライブものでは、フォーマットの限界を超えたリアルさが際立って視覚的效果もあいまって、音の評価よりも演奏技量に引き込まれるとの感想もありました。アナログ音源については、トランスのフォノケーブル入力部など、前ステージの方での効果が大きそうです。

4. まとめ

LP-12 と Garrad 401 のオーディオ資料室に収載した[再生経路と変更点](#)に記載している改善点の効果について、Mt.T2 氏には 6 月の時点から、K 氏と S 氏には昨年末の時点から大きな進歩があるとの評価をいただきました。

アナログアキュライザーについては、デジタル音源再生およびアナログ音源再生とも絶大な効果を示し、ともに演奏会の雰囲気近づいたような結果となり、試作品ながら完成度は高いと感じました。

以上